

令和7年度第4回狭山市社会福祉審議会会議録

開催日時 令和7年12月9日(火)
午前10時00分から午前11時04分まで

開催場所 市役所7階 職員研修室

出席者 7名
畑中委員、山崎委員、中澤委員、宮本委員(会長)、田中委員
影山委員、諏訪委員(副会長)

欠席者 6名 井島委員、成田委員、小田委員、寶積委員、成瀬委員、小野委員

市出席者 7名
昔農福祉部長、浅野福祉部次長(福祉政策課長兼務)、吉田障がい者福祉課長、吉澤高齢者支援課長、栗原福祉政策課トータルサポート室長、小林福祉政策課総務・政策担当主幹、小池福祉政策課同担当主査

傍聴者 なし

1 開会

2 会長挨拶

3 報告事項

(1) 第7次狭山市障害者福祉プラン策定に関するアンケート調査について

報告資料1 障がい者福祉課長より説明

〈質疑応答〉

委員 対象者を無作為抽出という話だったが、障害の手帳の状況からということではなくて、完全に無作為なのか。

所管課長 各障害種別で、その中から割合をある程度決めて抽出している。

委員 孤独・孤立を加えたのはいいことだと思うが、この孤独・孤立というのが調査では分けていることが結構多く、孤立は客観的に人との接触がない状態というふうに言っているのだから、今後もしアンケートを取られる場合に、人との接触の状況みたいな客観的な孤立の状態の方と捉えるようなアンケート項目は内閣府なんかでそういう孤独・孤立対策の中ではやっているのだから、そちらのものを入れていくといいかなと思う。

今後、高齢者や介護の方の調査もやっているのか、これからやるのかわからないが、例えばそういうところにも反映されるという形で、今回、地域福祉計画をやっている、その孤独・孤立関係のデータの整備が必要かなというふうに思ったので、今後の課題として、そういうふうにしていただくとより良くなるかなと思う。

4 審議、意見、調整事項

(1) 第5期狭山市地域福祉計画(素案)について

会議資料1 福祉政策課長より説明

委員 36 ページのひとり親世帯は、5年間で倍にはなっていないが、かなり増えたというのは、何か背景やこれまで子どもの方で議論になったことはあるのか？

所管部長 うろ覚えではあるが、ちょうどコロナの時期であり、働き方などもいろいろ変わってきた中で、家族の方もというような傾向があったかと思う。ご主人が働きに出かけられていたのが、コロナで少し在宅勤務が多くなってきた中で、家族構成とか家族間で少しあったということの一部記憶している。

委員 この計画というのは、もちろんホームページで公開され、これからパブリックというところで全ての市民の方たちにといいるところだと思いが、実際に製本して、どういうところに配布する、しないというのがあるのか？

専門用語というか、色々な取り組みの、例えば自立支援医療や就学援助など、そのあたりのところで、どの人たちが見るところを想定して作ったのか？改めて、そのあたりのレベル感や今後の配布のところは、本当に全ての方たちが理解できるようなものを目指しているのか。そうではなくて、お考えがあれば教えていただきたい。

所管課長 製本については、昔はすごく大量に製本して色々な施設や出先機関に置いていたのだが、最近は、市の計画もそうだが、やはりホームページなどで見ていただくという形が主流になってきている。ただ、だからといって、製本を全くしないわけではないが、限られた予算の中で製本をしていくので、関係する全てのところには行き届かないが、最低限必要などところには配布しようと考えている。その最低限、必要などところだけに向けたレベル、言葉で作られているのかという、そうではなく、これから再度、今回素案という形で示させていただいたのだが、その言葉の注釈などについてはこれから改めて入れていこうと考えている。なので、基本的には誰でも手に取っていただいて、わかりやすい計画を目指して作っている。

委員 ちなみに何部くらい製本して、どういうところに配布するのか。

所管課長 コンサルに委託をして作っている部分もあり、余った予算の中で、部数ギリギリまで作っていかうと考えている。沢山作りたいから安いところにといいわけではなく、やはりこういう計画であるので、障害者優先調達推進法に基づき、できれば障害者就労施設等に印刷をお願いして、限られた部数を作るというのを考えている。

なので、本当にできたとしても、何十部かなとは思っているの、それをこの部数なら例えば地区センターに置くというよりも、もっとより効果的なところを抽出しておくのと含めて、デジタル版の方も周知していくというように形を考えているので、今どこに置くかといったところは

まだ決まっていない。

会 長 概要版みたいなものは作るのか。

所管課長 デジタル版は作れるが、製本した概要版は作れない。

委 員 市報か何かに載せるのか。

所管課長 そういったものや関係機関のところには改めて周知していく。

委 員 これは3月の時点と書いてあるから、この7年度は6年度の実績なのかなというふうな考え方もできるがどうか。

所管課長 グラフや表のところは、計画を作る中で、年度と年が入り混じってしまうような形になってしまうので、なるべく年の方で統一したい。他の市の行政計画もそうだが、ただその中でどうしても、この件数は年度じゃないと、なかなか表現に測れないというものについては、年度で残すというような形で表記している。こちらの方も、今日のものには間に合っていないので、このグラフとこちらの内容がちゃんと一致して、年と年度のところも一致するように、修正していく。

会 長 正確な状況を反映するような修正をぜひお願いしたい。

委 員 年度途中の数字は載っていないと思っていいいのか？

所管課長 年度途中のものは、よほどのものでないと載っていない。

委 員 55 ページのコロナの記載がとても気になる。一つはデジタル化による福祉サービスアクセスの拡大と書いてあるが、これは福祉サービスが本当にアクセス拡大したのか？例えば、福祉サービスというと、要介護認定がデジタル化した、障害の認定がデジタル化したという風に見てしまいが、その事実があったのか。例えば、子育て世代の家庭が、合間に保育の申請ができるようになった、生活困窮者自立支援の窓口でデジタルで申請ができるという事実があるならこう書いていいのだが、福祉サービスと書いてしまったら、それではないので、どの事実を指しているのかというのが少しわからない。

最後の3行の部分の、地域福祉の設計を大きく進化させる契機となったというのも、何の意味？となる。目次のところで、第2章の2「デジタル化による福祉サービスアクセスの拡大」とだけあるが、もしこれを出すなら、やはり地域活動の停滞とか、停止とか、そういうこともちゃんと書いた上で、そっちもあったと、両面でバランスを取らないと、バランスを欠いてしまっているんで、停滞の部分が、上3行しか書いていないが、自治会の行事が止まってしまった、サロンが閉鎖して開催できなかったとか、そういうこともちゃんと書かないといけないし、一方で、外出型の活動も増えたということも書かないといけないので、ちゃんと両方書いてほしい。それから、福祉サービスアクセスが拡大して、実際メリットがある層がいたとして、やはり知的障害者の人とか高齢者には、デジタルディバイドの危険が広がっているので、そういう意味で

も両方書いてほしい。

所管課長 実際こうなってしまったというのが少し薄いところがあるので、そこをしっかりと書いていった中で、コロナが与えた影響のところは、展開の修正をしていきたい。

会 長 その辺りをきちんと整理して、パブリックコメントにかけた方がよろしいかと思う。

委 員 書いていただけるなら、(1)、(2)という感じで、メリット、デメリット、地域活動の撤退は(1)で書くとか、柱として、目次にも表れるのであれば、そうしておいた方がいいかなと思う。

所管課長 確認させていただきながら、整えていく。

委 員 今回、95 ページに、専門的な福祉人材の確保と環境整備というのを書いていただいて、まずはこの柱がちゃんと立ったということが大変いいことかなと思う。

表現で、96 ページの主な取り組みのところに、福祉専門職の人材の充実と書いてあるが、専門職の人材というと、言葉が重なっているというのがあり、文言の修正がもしできるようなら、例えば、福祉専門職確保への支援とか、何かそういう言い方でもいいのかなと思う。また、関連する主な計画に、障害の計画が書いてないが、障害は人材確保に困っていないのかと素朴に思ったので、もし人材確保が困っているということであれば、書いてもいいのかと思う。

所管課長 今のところは、修正して追記する。

参考資料1 スケジュール

福祉政策課長より説明

〈終了〉